

# めぶきニューヨークレポート

## MEBUKI NEW YORK REPORT

2022年7月号

- ◇ 【調査レポート】メキシコへの進出と雇用関係・・・・・・・・・・・・・・・・ P.1
- ◇ 【NYライフ】レイク・ジョージ・・・・・・・・・・・・・・・・ P.4
- ◇ 【ニュース一覧】・・・・・・・・・・・・・・・・ P.5

常陽銀行ニューヨーク駐在員事務所  
712 Fifth Avenue 8<sup>th</sup> FL  
TEL : +1-347-686-8420  
E-mail : newyork@joyobank.co.jp

本レポートの内容につきましては、当行の信頼し得る先からの情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、信頼性を保証するものではありません。具体的に法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談くださいますようお願い致します。

発行元：常陽銀行市場国際部



常陽銀行



足利銀行



めぶきフィナンシャルグループ

# トピックス ～メキシコへの進出と雇用関係～



巨大市場である米国の隣に位置し、2020年に貿易協定（USMCA）を米国、カナダと締結するなど、更なる発展が期待されているメキシコ。今回は、注目が増す同国の概要及び、進出のメリット、雇用関係についてレポートします。

## 1. メキシコ合衆国の概要

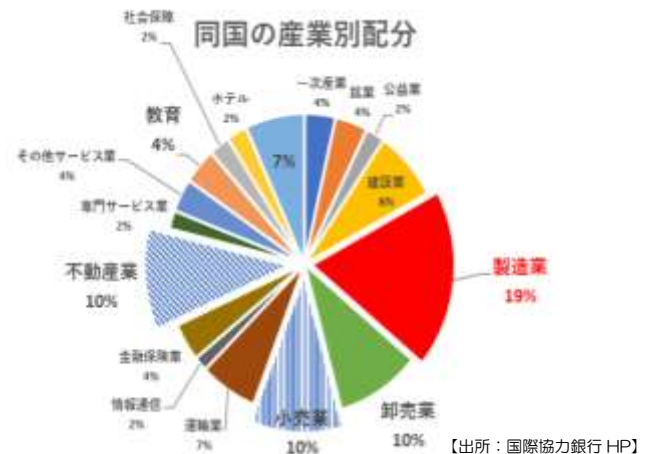
### ○概要

- ✓ 人口：1億3,164万人（世界第10位）
- ✓ 人口増加率：年平均1%超  
2030年には1億4,000万人に達する見込み。
- ✓ 公用語：スペイン語
- ✓ 平均寿命：約75歳（2018年末時点）  
40歳未満の人口が全体の66%を占める。
- ✓ 国土：約196万km<sup>2</sup>（日本の約5.2倍）  
首都メキシコシティのほか、日本人が多く住むアグアスカリエンテス州、グアナファト州は標高が2,000m前後あり、酸素濃度が平地の70～80%と低い。
- ✓ 気候：最低気温約6度（12月）、最高気温約26度（5月）（首都メキシコシティ）  
寒暖差が小さく過ごしやすい。



### ○経済の特徴

- ✓ GDP成長率：2019年、2020年はコロナ禍で落ち込みがみられたものの、2010年から2018年までは、毎年一桁台で安定成長。
- ✓ 産業：労働人口の産業別配分では、製造業が最も高く（19%）、過去10年でも同配分が最も増加している（+3%）。輸出額のうち、自動車、バイクを含む「輸送用機器」が62%を占めており、自動車関連の産業が盛んである。
- ✓ 主要貿易相手国：  
輸出 対米国76%  
輸入 対米国46%、中国18%



### ○政治の特徴

- ✓ 大統領：ロペスオブラドル氏（名前の頭文字(Andres Manuel Lopez Obrador)を取って AMLO（アムロ）とも呼ばれる）
- ✓ 経歴：  
2012年 現在の政党である国家再生運動（MORENA）を立ち上げ。  
2018年 MORENAを含む左派3党の代表として大統領選に出馬し、当選。同国初の左派政権。
- ✓ 任期：2018年～2024年
- ✓ 政策：①富の分配を重視（汚職を撲滅することにより、分配の財源を確保）②外交よりも内政  
③企業支援よりも農村振興（格差是正を目的）④産業政策よりも福祉政策（奨学金拡充等）  
→国民の支持率が高い（2022年5月末時点：62%）が、富の分配を標榜する政策（国営企業優遇、エネルギー資源の国有化など）は、民間企業寄りではない側面が強い。労働者の権利意識の高まりにより組合活動も活発化している。

## 2. 同国での事業展開のメリットとデメリット

### メリット

- 米国・南米との地理的距離
- 外資進出を支援する政策
- 低い労働コスト（工場等）
- 潜在力のある内需（輸出等）

### デメリット

- 現政権の国営企業寄りかつ変更が頻発する政策
- 不安定な治安情勢
- 不安定なエネルギー等のインフラ供給

中期的有望事業展開先国

順位		国名	
2021	←	2020	
1	-	1	中国
2	-	2	インド
3	▲	5	米国
4	▼	3	ベトナム
5	▼	4	タイ
6	-	6	インドネシア
7	-	7	フィリピン
8	▲	9	メキシコ
9	▼	8	マレーシア
10	▲	12	台湾

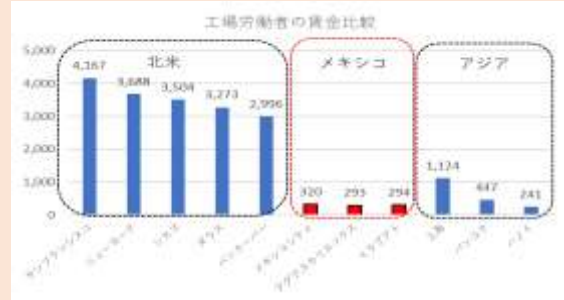
【出所：国際協力銀行本邦企業向けアンケートより】

### ○メリット

- ① 2021年の国際協力銀行の調査でも、今後の有望事業が展開できる国としてメキシコは8位にランクインしています（右表参照）。巨大市場である米国や南米と地理的に近いうえ、足元で懸念されているロシア、東アジアなどの地政学リスクの影響が小さいと言われています。
- ② 生産年齢人口が多く、労働コストはアジア諸国と比較しても低いことが特徴です。また、国民の平均年齢が若いことから、国内消費の拡大が期待できます。

### ○デメリット

- ① 現 AMLO 政権は、政権発足時の左派寄りの公約実現に向けた政策を打ち出しています。新空港建設工事を突如中止したり、極端な格差是正に向けて労働者権利を強化するなど、民間企業に逆風となる政策への修正が進むリスクがあります。
- ② 多くの日本企業が進出しているアグアスカリエンテス州は比較的問題ありませんが、全般的には国全体の治安が悪く、安全面には気を付ける必要があります。都市部に勤務する日本人駐在員は、公共交通機関を利用せず、車通勤もしくは徒歩圏内に住居を構えるなど、安全確保に努めています。



【出所：JETRO】



【出所：WORLDOMETER】



メキシコシティの街並み（筆者撮影）

首都メキシコシティには近代的なビルが立ち並んでいます。デパートなどのショッピングモールやスーパーには品物が豊富に並んでおり、所得水準が高い人々も一定数いることが伺えます。また、寿司屋、ラーメン屋などの日本食も現地に浸透しています。

### 3. 雇用関係について

進出にあたっては、当地の雇用に関する規制や慣習を理解する必要があります。以下、雇用条件と当地独特の留意すべきポイント、現地に進出している本邦企業の声を参考に記載しました。

#### 留意すべきポイント

- ① 現地人雇用義務  
全ての企業や事業所で、メキシコ人の雇用比率を9割以上としなければならないルールがあります。
- ② 労働者利益分配金  
メキシコ独自の制度として、「労働者利益分配金」があげられます。これは、企業活動で得た利益のうち、課税所得の10%を被雇用者に分配する制度です。企業収益を圧迫するため、傘下に人材派遣会社を作り、社員の所属を派遣会社に移すことで分配を免れる抜け道もありましたが、2012年の改正法により回避が難しくなりました。

項目	概要
勤務時間	昼間勤務は一日8時間以内。週48時間以内。 夜間は1日7時間以内、週42時間以内。 昼夜混合は7.5時間以内、週45時間以内。
時間外労働	一日3時間以内。週3日以内。1週間9時間までは時間給の2倍。9時間以上の場合は3倍を支給
休日	週に一日以上。
有給休暇	入社以降1年以上の労働者に取得権利。初年度は最低6日、2年目以降は2日ずつ追加。

メキシコの労働基準（JETRO 資料を基に筆者作成）

#### メキシコ人被雇用者に対する現地進出企業の声

時給など給与面にはとてもシビアです。他に雇用条件の良い職場があれば離職する傾向にあります（離職率は年2〜3割）。毎年の昇給査定もメリハリをつけており、インセンティブを与えることによって、優秀な人材の確保に努めています。

職場の福利厚生を重要視する特徴があります。従業員が働きやすい環境づくりとして、車を持たない（持てない）工場労働者などに対しては特に、通勤バスの用意や、食堂の充実などは欠かせません。

家族やイベントを大事にする傾向にあります。会社でも休日には家族ぐるみのイベントを企画し、従業員の会社への満足度を高める工夫をしています。

現地は物価上昇が顕著であり、従業員の昇給率は直近で4〜7%程度です。



### 4. 終わりに

メキシコにおけるコロナウイルス感染者は年頭のピークから減少しており、2022年5月末に訪問した際は、ショッピングモール、デパート、オフィス街など賑わいを見せていました。一方で、人々の大半がマスクを着用しており、自衛意識の高さも伺えました。滞在中に出会ったメキシコ人は総じて親切で人懐っこい印象でした。ホテルでトラブルに見舞われた際には、スタッフの方々に真摯に対応頂いたり、「日本の会社で働きたいのですが、私の日本語はどうか？」とレストランのスタッフに日本語で話しかけられたりもしました。治安の悪さには警戒が必要なものの、街は綺麗に保たれており、人間味溢れる几帳面な国民性が特徴の一つだと思いました。当事務所では同国含め海外進出を検討されるお客様へのサポートを行ってまいります。是非お気軽にご相談ください。（お問い合わせ先：[newyork@joyobank.co.jp](mailto:newyork@joyobank.co.jp)）



## NY ライフ ～レイク・ジョージ～

ニューヨーク市から北へ車で4時間ほどの場所に、レイク・ジョージ（ジョージ湖）という長さ51キロに渡る山に囲まれた美しい湖があります。「アメリカの湖の女王」の愛称で親しまれており、様々なアクティビティーが楽しめるアメリカ有数のバケーションスポットとして知られています。夏の始まりとされるメモリアルデーの週末、この湖を訪れました。



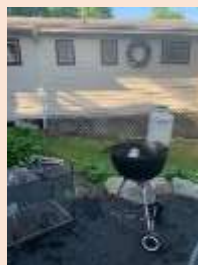
### メモリアルデー（戦没将兵追悼記念日）

戦没者を悼む日。アメリカでは毎年5月の最終月曜日が祝日となり、土日を含め三連休となります。各地でパレードなどのイベントが行われると共に、気候も良くなり多くの学校がこの時期に夏休みに入るため、アメリカではこの日から9月のレイバーデー（9月の第一月曜日）までがサマーシーズンとされています。



ジョージ湖は、夏はウォータースポーツやキャンプ、冬はスキーやアイスフィッシングなど、1年中自然の中でアクティビティーを楽しめるリゾート地です。特に夏の休暇を過ごす場所として人気のようです。湖に近づくにつれ、キャンピングカーやボートを牽いた車を多く見るようになりました。湖の南にある中心街にはレストランやホテルが並び、湖には様々な種類のボートが停泊していて、シーズン開始して間もないにも関わらず、多くの人で賑わっていました。

今回は三連休をゆっくり過ごそうという目的の旅行だったので、街から少し離れたホテルに宿泊しました。長期滞在する人も多いのか、部屋にはキッチンとバーベキュー設備が完備されています。地元のファーマーズマーケットで購入した新鮮な野菜や肉でお昼からバーベキューをしながら、外で飲むビールは最高です。



この地は、かつてフレンチ・インディアン戦争の主な戦場となりました。湖畔の高台に、18世紀にイギリス軍によって建設されたウィリアム・ヘンリー砦跡があります。併設された博物館には、当時の生活や砦の建設方法、発掘調査の様子などが展示されています。砦の上からは湖と周囲の山々を遠くまで見渡すことができ、戦いにおけるこの場所の重要性を実感します。

さらに湖から車で20分程の場所には、遊園地やミニゴルフ場、ワイナリー、アウトレットモール等様々なスポットがあり、子供から大人まで楽しめる魅力の詰まったエリアです。数日の滞在ではとても楽しみ切れず、次回はもっとゆっくりしたいと思います。自然の中でリラックスして美味しいものを食べ、アメリカの歴史に触れ、アウトレットモールでたくさん買い物もして、大満足の三連休でした。



# News 一覧

## ●政治

- ・バイデン氏、北欧2国首脳と会談、NATO加盟申請を後押しへ（5/19）
- ・バイデン大統領、台湾有事に武力行使の選択肢（5/23）
- ・米財務副長官、政権が対中関税引き下げ検討、物価と競争の対応で均衡必要（5/31）
- ・バイデン大統領、強力な銃規制を議会へ要求（6/2）
- ・OPECプラス、増産ペース拡大で合意、ロシア減産分補填へ（6/2）
- ・運輸省、政府支援のEV充電設備設置に関する要件公表（6/9）
- ・イエレン財務長官、米景気後退の可能性低い、ガソリン価格はすぐに下がらず（6/9）
- ・米国入国前のコロナウイルス検査義務を撤廃（6/12）
- ・NYホークル知事、州内中絶で患者・医療関係者を中絶制限州から守る法案署名（6/13）
- ・米、戦略石油備蓄の最大4500万バレルの追加放出を発表（6/14）
- ・米、対艦ミサイルなどウクライナに10億ドルの追加武器支援発表（6/15）
- ・米エネルギー省、ガソリン高騰巡り製油業者との緊急会合招集（6/16）

## ●金融政策

- ・FRB副議長候補バー氏、インフレは高すぎる、2%達成に尽力（5/19）
- ・セントルイス連銀ブラード総裁、FRB、物価抑制なら23-24年に利下げも（5/20）
- ・FRBパウエル議長、正式に就任し2期目の任期開始（5/23）
- ・アトランタ連銀ボスティック総裁、FRB、急な利上げに伴う経済的混乱回避を（5/24）
- ・FRBブレイナード副議長、FRB、高インフレ抑制に向け力強く行動（5/25）
- ・FRB、FOMC議事要旨で6・7月の0.50%利上げ支持、インフレ「非常に高い」（5/25）
- ・FRBウォラー理事、インフレ鈍化しなければ「より大幅な」利上げも（5/30）
- ・FRB、地区連銀報告で、米経済に金融引き締め効果の初期の兆候（6/1）
- ・FRBブレイナード副議長、物価改善なければ9月も利上げ継続が適切（6/2）
- ・クリーブランド連銀メスター総裁、あと2回の利上げ後は様子見の必要（6/2）
- ・FRB、物価高抑制へ28年ぶり0.75%大幅利上げ 景気減速を予想（6/15）

## ●経済指標

- ・中古住宅販売戸数：4月は561万件と3ヵ月連続で減少（予想は565万件）（5/19）
- ・国内総生産（GDP）：1-3月改定値は前期比年率-1.5%と下方修正（5/26）
- ・消費者景気信頼感指数：5月は106.4と前月の107.3から低下（予想は103.9）（5/31）
- ・ISM製造業総合景況指数：5月は56.1と前月の55.4から上昇（予想は54.5）（6/1）
- ・非農業部門雇用者数：5月は前月比+39.0万人と予想上回る（予想は+32.8万人）（6/3）
- ・米ミシガン大学消費者信頼感指数：6月（速報値）は50.2と、過去最低を更新。（6/10）
- ・CPI：5月は前年同月比+8.6%と伸びが加速（6/10）
- ・小売売上高：5月は前月比-0.3%で5ヵ月ぶりに減少（予想は+0.1%）（6/15）
- ・住宅着工件数：5月は前月比-14.4%の154.9万戸（予想は170.1万戸）（6/16）

（出所：各種新聞等、2022年5月下旬から2022年6月下旬のニュースを抜粋）